

## ある野心

有森信二

わたしの手の部品をはずす  
わたしの足の部品をはずす  
わたしの首の部品をはずす  
わたしの頭の部品をはずす  
わたしの腹の部品をはずす

それらはひとりでに  
わたしに近い牛になる

## 雨

たくましい腕を空が  
かすめとつてしまったので  
なにもかも  
かたつむりになる

一頁

兜の下  
洗われたばかりの首が  
空っ風に  
吹き晒される

## 抒情

吠えすぎた犬  
連帯とは  
紙屑

歯ぎしりの後の  
バンジージャンプ

## 氷河期

すずめが松の枝で  
虫を食っていた

てっぺんから  
飛行機が落ちてきた

そのとき  
魂と魂がぶつかった

## 覚醒

まわりくどい夜がきて  
上からのぞいたら  
化石した時間が  
点々と点々とこぼれ  
真白い入口付近に転げ出た  
ピラミッドがひしゃげていた

## 秋

電車の中で  
流れる風景が  
ふいに  
舌を噛み切ろうとした

## 明るい昼

昼食時はもうとうに過ぎた  
というのに

昨日からの細い雨は  
音もなく降り続けている

二階の二人は  
昨夜の激しく狂おしい  
営みの果てに

昼食時はとうに過ぎた  
というのに

それぞれの  
足と手とを縛り合い

まだ二階の二人は  
涎を流し  
眠りこけている

一瓶の薬を空にし  
りんりんりんりと走り  
ほうほうほうほうと上り  
るらるらるらと漂い

蛇口から滴り落ちる水は  
すっきり

涎を流し

洗面器を満たしこぼれ

こんなに明るい昼を

それにしても

眠り呆けている

めっぽう明るい昼である